

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：33902

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2013

課題番号：23243036

研究課題名(和文) 野蛮と啓蒙 経済思想史からの接近

研究課題名(英文) Barbarism and Enlightenment-elucidation from the history of economic thought

研究代表者

田中 秀夫(Tanaka, Hideo)

愛知学院大学・経済学部・教授

研究者番号：40148599

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 23,800,000円、(間接経費) 7,140,000円

研究成果の概要(和文)：野蛮という現象は人間本性にどの程度、本質的なのか、人間社会はいつまでも野蛮を克服することはできないのか？ 現在もなお我々が直面している問いに啓蒙思想家はどのように取り組んだのか。彼らは専制から市民社会への転換をなぜ主張できたのか。そして18世紀の経済学の形成はどのような文脈で民主主義とつながるのか。こういった歴史分析を通じて、平和で戦争のない、しかし活力を持って共存できる地球社会への展望を模索した。

研究成果の概要(英文)：What was and is Barbarism? Why Enlightenment philosophers could expect the formation of civil society, democratic, liberal, and safe? We are still facing with various kind of Barbarism and Violence. We studied the way to eliminate barbarism through consulting the legacy and wisdom of Enlightenment Philosophers, especially their economic thoughts, because they thought arts and commerce were peace industry. Commercial activity could and can produce active society of all people concerned by way of division of labor and cooperation. They respected the human dignity. All concerned contribute to make good, active and safe society by cooperation without violence. This is commercial humanism of the Enlightenment economic thinkers born out of civic humanism in the 18th century. We should learn from them still now.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学 経済学説・経済思想

キーワード：野蛮 啓蒙 経済学 改良 文明化 富 戦争 平和

1. 研究開始当初の背景

「野蛮」は歴史を通して常に課題であった。人権蹂躪も自然破壊もある。野蛮の反対概念であるはずの文明化が野蛮を生み出すこともある。野蛮の克服を根源的に考えることが思想史的にも重要である。「啓蒙」についてはこれまでの共同研究でかなり時間をかけて検討してきた。その成果を踏まえて、「野蛮」が「啓蒙」によって実際にいかに克服されたか、その際に、経済学という新しい学問の形成が「野蛮」の克服にいかに寄与したか、あるいは新しい「野蛮」を生まなかったかを究明することが必要であるという問題意識を持つにいたった。

2. 研究の目的

この「野蛮と啓蒙 経済思想史からの接近」と題する研究は、18世紀のヨーロッパと英米にける経済学が啓蒙思想の内部でその不可欠な一部として形成されたというこれまでのプロジェクトの研究成果を踏まえて、さらに市民的公共圏や大学などで形成展開された経済論議・経済学が「野蛮」とどのように取り組み、「啓蒙」をいかに実現して行ったかを究明しようとするものである。

3. 研究の方法

共同研究であるから、各人が分担テーマに関して個別に研究を行ない、その成果を研究例会で報告し、討論し分析を深め、共通の認識を得ていくという格好で研究を推進した。研究代表者は日常的に討論相手を務めたが、研究例会以外は学会を利用するか、メールなどを利用した。最終年度の例会は年間5回行った。グラスゴウ大学のベリー教授を招いてアドヴァイスを得る例会も持った。

4. 研究成果

第一に共同研究の成果を『野蛮と啓蒙 経済思想史からの接近』と題した書物として刊行した(京都大学学術出版会、2014年3月)。また最終年度としてメンバーが意欲的に学会などで発表し、論文も刊行した。プロジェクトの所期の課題をほぼ実現した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計17件)

- 田中秀夫「トマス・ホリスとアメリカ独立革命」、愛知学院大学経済学部『経済学研究』第1巻第2号、査読無、2014年3月、1-26頁
- 田中秀夫「英語圏啓蒙思想についての研究」、『社会思想史研究』No.37、2013年9月、査読無、8-32頁。
- 田中秀夫「ライオネル・ロビンスの生涯と思想」、愛知学院大学経済学部『経済学研究』第1巻第1号、査読無、2013年9

月、1-18頁

- 田中秀夫「アダム・スミスの歴史観」、『経済学論究』関西学院大学、査読無、67巻1号、2013年6月、37-64頁。
- 大津真作 “Linguet Redivivus in Contemporary World” 『甲南大学文学部紀要』第164号、2014年3月、95-111頁、査読無
- 大津真作「近代的国家観の異端—マキアヴェッリからスピノザへ—」、『経済論叢』京都大学経済学会、第186巻第3号、2013年4月 31-47頁、査読無
- 生越利昭「産業革命期における「勤労」育成の問題 マシュー・ポウルトンの活動」『経済学論究』関西学院大学、67巻1号、2013年6月、pp.1-35 査読無
- 渡辺恵一「内田・小林論争とアダム・スミス研究」、『経済学論究』関西学院大学、第67巻第2号、2013年9月、53-73頁 査読無
- 米田昇平「啓蒙の経済学 アベ・ド・サン=ピエール、ムロン、モンテスキューの商業社会論をめぐる(上)」、『下関市立大学論集』第57巻第1号、2013年5月、pp.39-56、査読無。
- 米田昇平「啓蒙の経済学 アベ・ド・サン=ピエール、ムロン、モンテスキューの商業社会論をめぐる(下)」、『下関市立大学論集』第57巻第2号、2013年9月、pp.53-72、査読無。
- 奥田敬「アントニオ・ジェノヴェージの七段階発展論」、『甲南経済学論集』、査読無、第54巻3・4号、2013年、171-193頁
- 原田哲史「アダム・ミュラーの自由論と世代間倫理」、関西学院大学『経済学論究』第67巻第1号、2013年6月、155-186頁、査読無
- 原田哲史「ゲオルゲ=クライスにおける哲学者 E. ラントマンから経済学者 E. ザリーンへの影響」、関西学院大学『経済学論究』第67巻第2号、2013年、145-175頁、査読無
- 後藤浩子「商業論の登場と政治観の変容」、『経済論叢』京都大学経済学会、第186巻第3号、2013年4月、49-60頁。査読無
- Seiichiro Ito, 'Registration and credit in seventeenth-century England', pp. 137-162, *Financial History Review*, vol. 20:2, 2013, August. 査読有
- Matsumori, N. "Reason and Prudence: A Study of the Discussions on the Nature of 'Indians' in Sixteenth-Century Spain (II)", *Journal of International Relations and Comparative Culture*, vol. 12, No. 1, September 2013, pp. 119-128. 査読有
- Matsumori, N. "Reason and Prudence: A Study of the Discussions on the

Nature of 'Indians' in Sixteenth-Century Spain (III)", *Journal of International Relations and Comparative Culture*, vol. 12, No. 2, March 2014, pp. 149-159. 査読有

〔学会発表〕(計 32 件)

- 田中秀夫「トマス・ホリスとアメリカ独立革命」, ヒュームとスミスの会、東洋大学、2014年3月28日
- 田中秀夫「社会経済思想史 40 年」, 愛知学院大学産業研究所 2013年12月4日
- 田中秀夫「ロビズ兄妹のこと」, 京都大学名誉教授懇談会、2013年11月10日
- 田中秀夫「啓蒙、郷土愛、国民国家」, セッション「啓蒙、郷土愛、国民国家 コスモポリタニズム・共和主義・ナショナリズム」(報告者:伊藤誠一郎、大津真作、田中秀夫)世話人と報告、社会思想史学会第 38 回大会、関西学院大学、2013年10月26日
- 大津真作「寛容とコスモポリタニズム」, 社会思想史学会、2013年10月26日、関西学院大学経済学部
- 生越利昭「重商主義における野蛮と啓蒙」, 社会思想研究会、大阪大学、2014年2月22日
- 日生越利昭「『近代を創ったスコットランド人』をめぐる」, セッション「ヒュームとスミス」, 社会思想史学会第 38 回大会、関西学院大学、2013年10月26日
- 生越利昭「野蛮と啓蒙の問題設」(セッション「野蛮、啓蒙と経済学の形成」)経済学史学会第 77 回全国大会、関西大学、2013年5月26日
- 渡辺恵一「羽鳥卓也先生のスミス研究」(羽鳥卓也先生追悼シンポジウム「古典派経済学研究の課題 羽鳥卓也先生の問題提起を再考する」), 経済学史学会関西部会第 164 回例会, 甲南大学, 2013年7月13日
- 米田昇平「マンデヴィルとフランスのコンテクスト 奢侈論争との関連で」, 日本イギリス哲学会第 38 回研究大会(シンポジウム:マンデヴィル『蜂の寓話』刊行 300 年) 東洋大学、2014年3月30日
- 米田昇平「J・F・ムロンの商業社会論 啓蒙の経済学」, 経済学史学会全国大会(セッション:野蛮、啓蒙と経済学の形成) 関西大学、2013年5月25日
- 米田昇平「経済学のフランス的起源—ボワギルベールを中心に」, 日仏経済学会、福山市立大学、2013年5月18日
- 喜多見洋「ルソー焚書事件と社会的ネットワーク」, 社会思想史学会第 38 回大会、関西学院大学、2013年10月26日
- 奥田敬「ナポリ啓蒙における 野蛮の表象」, 2013年5月26日の経済学史学会第 77 回全国大会(関西大学)、セッション「野蛮、啓蒙と経済学の形成」の討論者
- 後藤浩子「有用性と野蛮」(「野蛮、啓蒙と経済学の形成」セッション)経済学史学会、2013年5月26日(関西大学)
- 中澤信彦「ケインズの便宜主義 ケインズはパークをどのように読んだのか?」経済学方法論フォーラム、松山大学、2013年12月26日
- 中澤信彦「反革命思想と経済学 マルサス『食糧高価論』に関する一考察」経済学史学会第 165 回関西部会、名古屋大学、2013年12月21日
- 中澤信彦「自由市場の道德性をめぐる一考察 エドモンド・パークの場合」社会思想史学会第 38 回大会、関西学院大学、2013年10月26日
- 中澤信彦 'Malthus's Criticism of Paine's *Rights of Man*' 26th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia (HETSA), The University of Western Australia, Perth, 2013. 7. 4
- 中澤信彦「ハードウィック結婚法とエドモンド・パーク マルサス主義的結婚システムとの関連で」マルサス学会第 23 回年次大会、北海学園大学、2013年6月29日
- 21 伊藤誠一郎「イングランドはオランダからなにを学ぼうとしたか?」セッション「啓蒙・郷土愛・国民国家 コスモポリタニズム・共和主義・ナショナリズム」, 第 38 回社会思想史学会大会、関西学院大学、2013年10月26日
- 22 伊藤誠一郎、「17 世紀イングランドにおける信用と基金」セッション「初期近代グレート・ブリテンにおける信用の制度化をめぐる諸議論」(組織者伊藤誠一郎)経済学史学会第 77 回全国大会、関西大学、2013年5月26日
- 23 Seiichiro Ito, 'What was the issue in the land-bank controversy?', The 17th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Kingston University London, United Kingdom, 2013年5月17日。
- 24 古家弘幸「社会、言語、思想—スコットランド啓蒙の諸相」国際基督教大学キリスト教と文化研究所特別公開講演会、2013年12月13日。
- 25 Hiroyuki Furuya, 'From Propriety to Impartiality in Adam Smith',

- International Ricardo Conference, Liberty Tower, Meiji University, Tokyo (16–18 September, 2013).
- 26 Hiroyuki Furuya, 'Fitness as Ingenuity: Judgment of Taste in Adam Smith's *Theory of Moral Sentiments*', The 40th Annual Conference of the History of Economics Society (HES), Session D3: 'Eighteenth-Century Economics: Cantillon, Smith, Reid', University of British Columbia, Vancouver, Canada (20–22 June, 2013).
- 27 Hiroyuki Furuya, 'The Enlightenment Idea of Improvement and its Discontents: The Case of Orkney in the Eighteenth Century', The 17th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), 'Economic Theory and Business Practice: Their relations through the ages', Session E2: 'Hume and the Scottish Enlightenment' (Chair: Hiroyuki Furuya), Kingston University, London (16–18 May, 2013).
- 28 松森奈津子「スペイン啓蒙とその前史 サラマンカ学派イエズス会派を中心に」、東北大学政治学研究会、2013年11月15日。
- 29 川名雄一郎「哲学的急進派と民主主義」、社会思想史学会、2013年10月27日、関西学院大学、セッション「自由主義思想の射程」の報告者
- 30 川名雄一郎「有江大介編『ヴィクトリア時代の思潮とJ. S. ミル』三和書房、2013年をめぐって」、経済学史学会関東部会、2013年10月5日、東洋大学、コメンテーター
- 31 林直樹「デフォーとイングランド啓蒙」、経済学史学会西南部会第116回例会、2013年12月7日
- 32 林直樹「ダニエル・デフォーと1710年代の公信用論」、経済学史学会第77回大会、関西大学、九州共立大学、2013年5月26日

〔図書〕(計6件)

- 田中秀夫『スコットランド啓蒙とは何か』、ミネルヴァ書房、2014年、325頁
- 田中秀夫『啓蒙の射程と思想家の旅』、未来社、2013年9月、218頁
- 田中秀夫『近代社会とは何か ケンブリッジ学派とスコットランド啓蒙』、京都大学学術出版会、2013年7月、204頁
- 田中秀夫編著『野蛮と啓蒙 経済思想史からの接近』、京都大学学術出版会、2014年3月、694頁
- 太子堂正称「ハイエクの「法の支配」

自然法論と共和主義的性格」桂木隆夫編『ハイエクを読む』ナカニシヤ出版、2014年3月、5-34頁

— 松森奈津子「サラマンカ学派『野蛮人』と政治権力」、川出良枝編『岩波講座政治哲学(1)』岩波書店、2014年3月、51-71頁

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中秀夫 (TANAKA HIDEO)  
愛知学院大学・経済学部・教授  
研究者番号：40148599

(2) 研究分担者

大津真作 (OHTSU SHINSAKU)  
甲南大学・文学部・教授  
研究者番号：20097752

生越利昭 (OGOSE TOSHIAKI)  
兵庫県立大学・経済学部・名誉教授  
研究者番号：30094527

関源太郎 (SEKI GENTARO)  
九州大学・経済学研究院・名誉教授  
研究者番号：60117140

渡辺恵一 (WATANABE KEIICHI)  
京都学園大学・経済学部・教授  
研究者番号：20148365

米田昇平 (YONEDA SHOHEI)  
下関市立大学・経済学部・教授  
研究者番号：20182850

研究者番号：

喜多見洋 (KITAMI HIROSHI)  
大阪産業大学・経済学部・教授  
研究者番号：30211197

奥田敬 (OKUDA TAKASHI)  
甲南大学・経済学部・教授  
研究者番号：40194493

原田哲史 (HARADA TETSUSHI)  
関西学院大学・経済学部・教授  
研究者番号：70208677

後藤浩子 (GOTO HIROKO)  
法政大学・経済学部・教授  
研究者番号：40328901

中澤信彦 (NAKAZAWA NOBUHIKO)  
関西大学・経済学部・教授  
研究者番号：40309208

伊藤誠一郎 (ITO SEIICHIRO)  
大月短期大学・その他部局等・教授  
研究者番号 20255582

松森奈津子 (MATSUMORI NATSUKO)  
静岡県立大学・国際関係学部・准教授  
研究者番号：80337873

古家弘幸 (FURUYA HIROYUKI)  
徳島文理大学・総合政策学部・准教授  
研究者番号：30412406

太子堂正称 (TAISHIDO MASANORI)  
東洋大学・経済学部・准教授  
研究者番号：40511332

村井明彦 (MURAI AKIHIKO)  
同志社大学・商学部・助教  
研究者番号：90609554

川名雄一郎 (KAWANA YUICHIRO)  
京都大学・学内共同利用施設等・助教  
研究者番号：20595920

大塚雄太 (OTSUKA YUTA)  
名古屋大学・学内共同利用施設等・助教  
研究者番号：70547439

林 直樹 (HAYASHI NAOKI)  
尾道市立大学・経済学部・講師  
研究者番号：50713773

(3)連携研究者

( )